

U.S. Indicators

発表日: 2024 年 11 月 5 日(火)

米大統領選を控え製造業部門調整(10 月ISM製造業)

～先行き不透明感による投資抑制の継続～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel: 050-5474-7493)

24 年 10 月の I S M製造業景気指数(季節調整値)は、46.5(前月 47.2)と市場予想中央値の 47.6(筆者予想 46.8)への上昇に反して、前月比 0.7%ポイント低下した。新規受注、雇用が上昇したものの、生産、在庫の低下によって、米製造業部門の調整幅が拡大した。接戦予想の米大統領・議会選挙を背景とした先行き不透明感の高まり等によって、企業が設備投資や在庫投資に消極的になり、I S M製造業景気指数は製造業部門の停滞を示している。ただし、製造業景気指数は米国が景気後退に陥った時期の水準を依然上回っており、米景気全体の悪化を示していない。

10 月の構成項目別の前月からの変化では、新規受注、雇用が上昇した一方、生産、在庫、入荷遅延が低下した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、新規受注が前月比+0.20%pt、雇用が前月比+0.10%ptの押し上げ寄与となった一方、生産が前月比▲0.72%pt、在庫が前月比▲0.26%pt、入荷遅延が前月比▲0.04%ptの押し下げ寄与となった。

構成項目の水準では、入荷遅延が 50 を上回った一方、生産、新規受注、雇用、在庫が 50 を下回ったままとなった。入荷遅延は 52.0(前月 52.2)と小幅低下したが、入荷の遅延が続いたことが示された。ただし、需要の強さによる上昇ではない。サプライヤーの生産能力には余裕があるものの、企業が購入した材料在庫の管理をサプライヤーにより依存するようになったため、サプライチェーンの負担が増し、納入の遅れに繋がっている。

一方、生産は、46.2(前月 49.8)と低下し、生産の拡大した業種は 18 業種中 6 業種(前月 5 業種)にとどまったほか、新規受注は、政策に対する不透明感のほか、高い金利水準、コスト上昇等を背景とした景気の先行き不透明感の強まりによって 50 を下回っており、拡大した業種は 18 業種中 3 業種(前月 2 業種)にとどまった。また、雇用は、レイオフ、自然減、採用凍結による人員削減によって、増加した業種数が 3 業種(前月 2 業種)にとどまり、44.4(前月 43.9)と低い水準となった。さらに、在庫は、生産抑制の影響もあり 2 業種(前月 1 業種)の増加にとどまり、全体で 42.6(同 43.9)とさらに低下、在庫の減少幅の拡大を示した。

サブ項目では、輸出受注 D I が 45.5(前月 45.3)と輸出の減少が示されたほか、輸入 D I が 48.3(前月 48.3)と輸入の減少が示唆された。

他方、インフレの動向を示す仕入価格指数は、54.8(前月 48.3)と大幅に上昇し、インフレ圧力の再燃が示唆された。商品別では、アルミニウム、段ボール箱、銅、原油、天然ガス、紙、プリント基板、道路貨物等の価格が上昇した。供給不足品では、電気部品に加えて、電子部品が挙げられた。

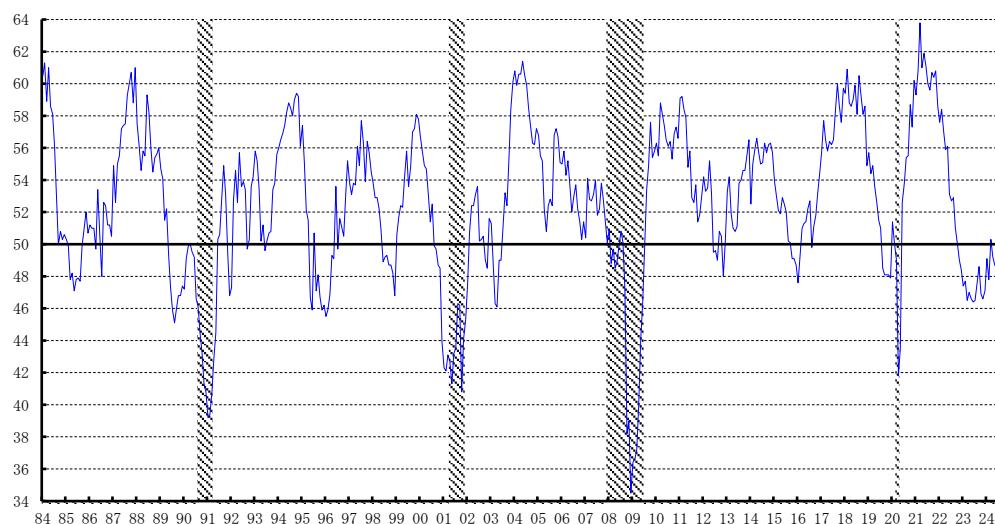
I SM製造業景気指数

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
23/10	46.9	46.2	50.0	47.1	43.6	47.7	42.2	45.1	49.4	47.9
23/11	46.6	47.8	48.8	46.1	44.3	46.2	39.3	49.9	46.0	46.2
23/12	47.1	47.0	49.9	47.5	43.9	47.0	45.3	45.2	49.9	46.4
24/01	49.1	52.5	50.4	47.1	46.2	49.1	44.7	52.9	45.2	50.1
24/02	47.8	49.2	48.4	45.9	45.3	50.1	46.3	52.5	51.6	53.0
24/03	50.3	51.4	54.6	47.4	48.2	49.9	46.3	55.8	51.6	53.0
24/04	49.2	49.1	51.3	48.6	48.2	48.9	45.4	60.9	48.7	51.9
24/05	48.7	45.4	50.2	51.1	47.9	48.9	42.4	57.0	50.6	51.1
24/06	48.5	49.3	48.5	49.3	45.4	49.8	41.7	52.1	48.8	48.5
24/07	46.8	47.4	45.9	43.4	44.5	52.6	41.7	52.9	49.0	48.6
24/08	47.2	44.6	44.8	46.0	50.3	50.5	43.6	54.0	48.6	49.6
24/09	47.2	46.1	49.8	43.9	43.9	52.2	44.1	48.3	45.3	48.3
24/10	46.5	47.1	46.2	44.4	42.6	52.0	42.3	54.8	45.5	48.3

10月に拡大した業種は、全18業種のうちアパレル・皮革製品、食品・飲料・タバコ、石油・石炭、コンピューター・電子機器、その他製造業の5業種（前月5業種）にとどまった（下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）。主要6業種では、食品・飲料・タバコ、コンピューター・電子機器の2業種が拡大した。一方、縮小した業種は、繊維、印刷・関連サポート活動、輸送機器、化学製品、電気設備・部品、一般機械、一次金属、非鉄、プラスチック・ゴム製品、加工金属、紙製品の11業種と前月の13業種から減少した。なお、家具・同関連、木材製品は変わらずとなった。

今後の製造業部門の活動は、FRBが9月に大幅な利下げを実施したものの、11月の米大統領・議会選挙の不透明感を背景に11月にかけて調整が続けると予想される。しかし、米大統領選挙後の12月以降、米政策に対する不透明感の緩和や、FRBの利下げ継続期待の高まりを背景にとした設備投資や在庫投資の増加ペース加速などを受け、米製造業の活動は活発化する公算が大きい。

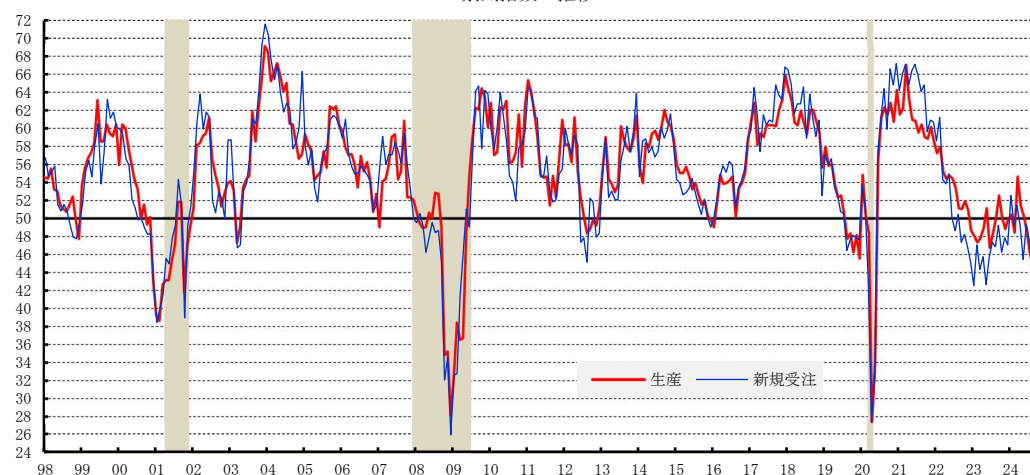
I SM製造業景気指数の推移



(出所) I SM

(注) シャドー部は景気後退期。

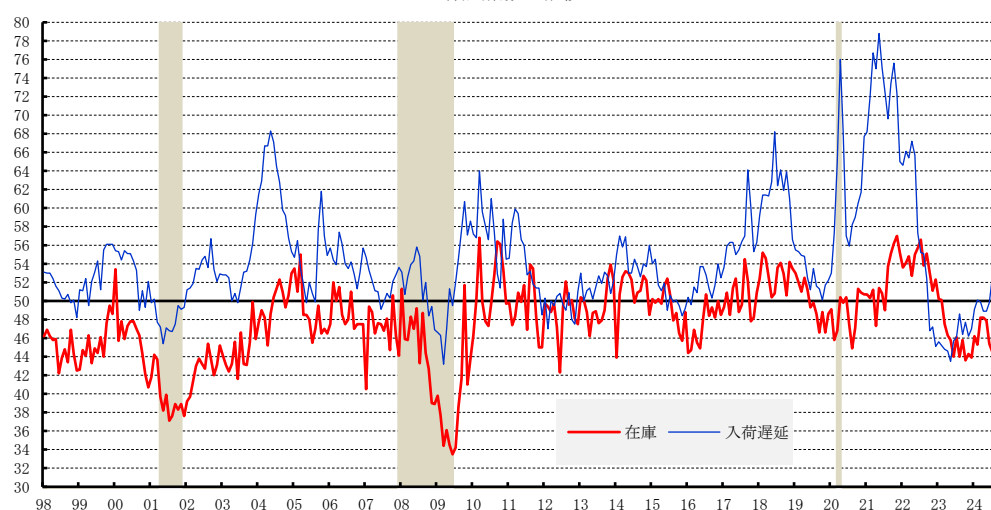
ISM景気指数の推移



(出所) I S M

(注) シェード部は景気後退期

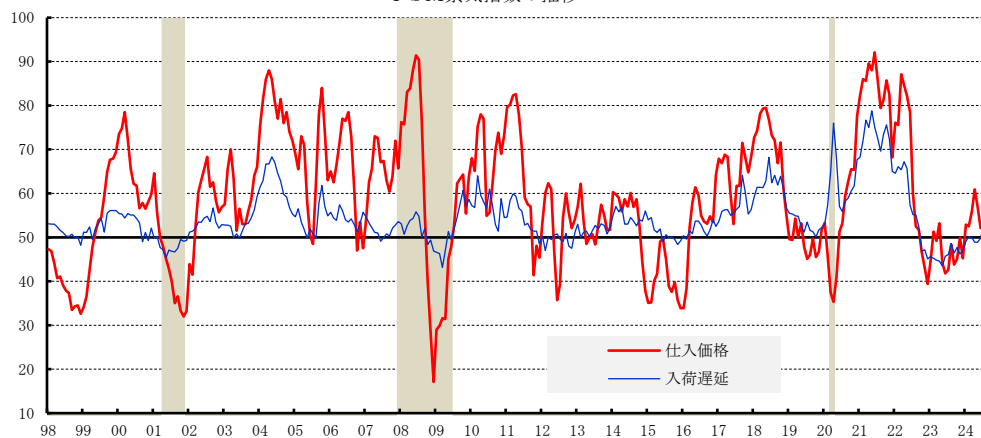
ISM景気指数の推移



(出所) I S M

(注) シェード部は景気後退期

ISM景気指数の推移



(出所) I S M

(注) シェード部は景気後退期

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

